

Web サイト活用による住民との情報共有 ～ NewsML を用いたワンストップサービス化～

小林聡^{*1} 井上明^{*2} 永井智子^{*3} 石田達朗^{*4} 佐野嘉紀^{*4} 長澤知津子^{*4} 吉村孝昌^{*4} 金田重郎^{*1 *3}

同志社大学院総合政策科学研究科^{*1} 甲南大学情報教育研究センター^{*2}

同志社大学大学院工学研究科^{*3} 同志社大学工学部^{*4}

1. はじめに

祭り・展覧会等の様々なイベント情報が新聞社・行政などの Web ページや紙媒体を通じて公開されている。しかしそのデータフォーマットは統一化されておらず、同一のイベント情報が様々な形式で配信・管理されている。また、これらの情報の流通過程はほとんど電子化されていない。本来、イベント情報に限らず情報は容易に再利用可能な形で提供されるべきである。

一方で、地方自治体では広報広聴が重視されている。2004 年 2 月に高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された日から、京都府庁ではホームページの情報を 1 日に何回も更新するなど、住民との素早い情報共有に努めた。このように、現在、地方自治体には災害等の情報について住民に対する迅速な提供が要求されている。

そこで我々はイベント情報の発信元でもある京都府との共同研究を行い、現在京都府庁内で紙媒体により扱われている広報情報の電子化及び外部への発信の効率化を実現する「京都府広報情報発信システム」を試作した。これにより広報情報の再利用性を高め、庁内における業務の効率化と新聞社等の外部機関への再配布の実現性を検討する。

具体的取り組みとして、1) 広報情報を十分に表すデータ形式の定義、2) 広報情報の入出力・蓄積・修正が一括に管理できるツールの開発、3) 蓄積されたデータを使い Web ページなどの自動配信が可能となるシステムの構築を行った。また実際に一部の部局で評価実験を行うことで、ワンストップサービス化を検証し、試作したシステムの有効性が証明された。

Information Sharing with Resident through Web Site - One Stop Service of "Event" Information using NewsML -

- *1.Satoshi KOBAYASHI, *2.Akira INOUE,
- *3.Tomoko NAGAI, *4.Tatsuro ISHIDA,
- *4.Yoshinori SANNO, *4.Chizuko NAGASAWA,
- *4.Kosuke YOSHIMURA, *1*3.Shigeo KANEDA
- *1. Graduate School of Policy and Management, Doshisha University
- *2. Education and Research Center for Information Science, KONAN University
- *3.Graduate School of Engineering, Doshisha University
- *4.Faculty of Engineering, Doshisha University

2. 庁内業務の現状とシステムのアプローチ

京都府庁内でのイベント情報の入手から各広報媒体への出力までの作業を分析したところ、以下のフローの存在がわかった。

1) 広報計画予定表フロー：広報計画予定表は、イベント情報の詳細や広報媒体について記載された内部帳票である。これはイベントの情報を入手した起案部局が作成し、主管課・広報課へと紙媒体で流通するフローである。2) プレスリリースフロー：これは起案部局で報道機関配布用のもの（紙媒体）と、Web ページ掲載用のプレスリリースが html 形式に再入力されるフローである。3) 各課ホームページフロー：これは各課が入手したイベント情報を自らの Web サイト上で公開するフローである。

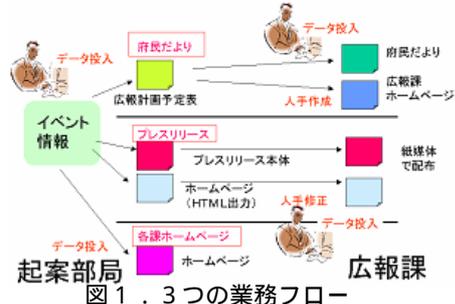


図1. 3つの業務フロー

以上の3つのフローが存在する庁内業務の現状を受け、我々は庁内業務の電子化によるイベント情報発信の効率化を試みることにした。具体的には、3種に大別される広報情報を一元管理し、起案部局で一度入力された広報情報から、広報誌や Web ページの自動生成などが再投入なしで可能となるワンストップサービス化を目指す。またイベント情報を新聞記事流通の国際標準フォーマット『NewsML』をもとに規定した『EventXML』と呼ぶ XML によって扱うことで、イベント情報の外部機関への再配布利用を視野に入れたシステムとする。

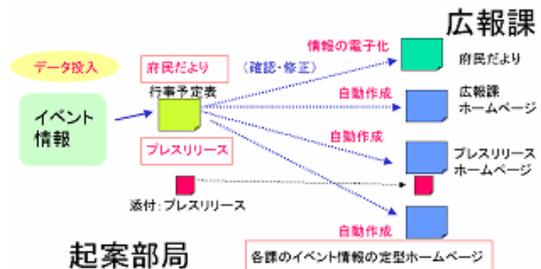


図2. システム導入後のフロー

3. 京都府広報情報発信システム

構築した京都府広報情報発信システムは、イベント情報を入力・編集する入力部と広報計画予定表や各種 Web ページを生成する出力部、ファイルの参照や操作の選択を行うインタフェース部から成る。

システムの実装環境は、横浜ベイキットから提供されているオープンソフトウェアである BayServer と Xi を用いた。Xi を用いた利点は XML 文書を扱うための動的な開発が容易であった点が挙げられる。

入力部は、「広報計画予定表エディタ」、「プレスリリースエディタ」と広報誌用データや広報課ホームページに記載する内容を作成・編集する「イベントカレンダーエディタ」から構成される。それぞれ、日付の入力はチェックボックスやセレクトメニュー、電話番号などの入力欄には文字コードを半角英数字に固定させる等、適切な形で情報が入力されるような仕組みを施した。



図3. 自動生成された Web ページ

出力部は、広報計画予定表の pdf 形式での出力と、広報課ホームページ・プレスリリース Web ページ・各課ホームページの各種自動生成という機能を持っている。広報計画予定表は、本システムがプロトタイプであり、紙による現行の業務にも対応するために XSL-F0 を用い、pdf 形式で出力できるようにした。広報課ホームページは、京都府のイベントについて、日付毎/イベント種別毎/開催地域毎のページをそれぞれ作り、様々な閲覧者の要求に応えられるように配慮した。プレスリリース Web ページには RSS へのリンクを付加した。これにより、府民をはじめとする閲覧者は、京都府の発信する情報をよりすばやく確実に取得することが可能となる。各課ホームページは、その課の関係するイベント情報と発表したプレスリリースが参照可能なページを自動生成できるようにした。

インタフェース部では、システム利用者をアカウントにより管理し、利用者の所属する部局のデータ以外は参照できないようにした。また最近更新したファイルの一覧やそのデータの性質によってフィルタをかける機能により、目的のファイルを探しやすい仕組みを実装した。

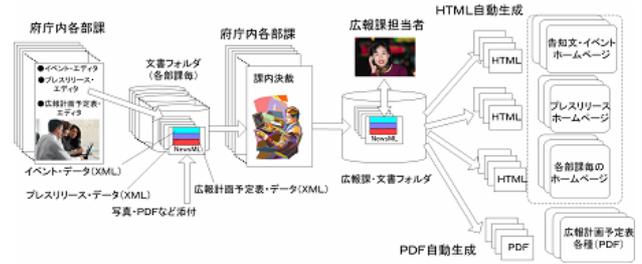


図4. システム概略図

システムの評価

構築したプロトタイプシステムを京都府の一部の部局において評価実験を行った。

各エディタを用い、実データを投入した結果、これまでと同様の広報計画予定表の取得、プレスリリース Web ページ・広報課ホームページ・各課ホームページの自動生成が実現された。同時に、これまでの業務で発生していたデータの再投入の作業が省略されており、効率化を確認した。また、イベントデータは NewsML 形式で取り出すことができ、新聞社等の外部機関へシームレスに流通するという、真のワンストップサービス化の基盤となるシステムであると言える。

4. まとめ

本研究では、京都府との共同研究により広報情報の生成・発信を一元管理するシステムを試作し、一部部局において評価実験を実施した。このシステムでは広報情報の再配布を実現するため、新聞記事流通の国際標準フォーマット NewsML を採用しており、今後は京都府庁から各種イベント情報を、新聞社・放送局などに自動配信する「イベント情報のワンストップ化」の可能性を検討する。

謝辞

本研究は、京都府広報課、同志社大学リエゾンオフィス、甲南大学情報教育研究センターの共同研究として実施されたものです。共同研究の機会をいただいた、山口広報課長、雨宮広報企画室長をはじめとする京都府広報課各位に深く感謝いたします。

尚、本稿に述べられた見解は著者らの見解であり、京都府としての公式の見解を述べたものではありません。

参考文献

- [1] 金田重郎「京都のイベント情報 - インターネットで全国へ - 」『都市研究・京都』(京都市) VOL.15、2003年、68-80頁
- [2] 丸山孝「公聴広報業務におけるWebサイト活用によるコミュニケーション」『情報知識学会誌』Vol.14No.4、2004年、40-51頁